



UNITED NATIONS
UNIVERSITY

UNU-IAS

Institute of Advanced Studies

国際連合大学における質保証

ゴヴィンダン・パライル
国際連合大学副学長 兼
国連大学高等研究所所長

平成23年度大学評価フォーラム
2011年10月26日 於:東京

国連大学の任務

「国際連合大学は、……研究、大学院教育研修、知識の普及に携わる学者の国際的共同体である。」（国際連合大学憲章第1条第1項）

国連大学の使命

- 学者・研究者の国際的な共同体
- 国連と国際的な学術社会の「かけ橋」
- 国連システム全体のシンクタンク
- 特に途上国における研究、教育、能力育成
- 対話、革新的な考え方および創造的な解決策のプラットフォーム

国連大学のビジョン

- 現在および未来の世代が、良識のある平和で自由、安全かつ健康な生活を送るためのさまざまなニーズに対応する、世界レベルの研究・教育・能力開発を行う国際機関となることを目指す。

国連大学のビジョン

- 国連大学は、国際連合とその加盟国に以下の領域における最先端研究と蓄積した知識を提供するように努める
 - 平和、安全保障、人権
 - 開発とグッド・ガバナンス（望ましい統治）
 - 人口と健康
 - 地球規模の変動と持続可能な開発
 - 科学、技術および社会
 - 包括的な目標としての持続可能性

国連大学システム



国連大学の特色

- 全世界における意欲的な他の多くの研究機関と同様に、国連大学は国際的な大学院教育・研究機関として広く認められ、とくに以下の点ではもっともよく知られることを目指している
- 可能な限り最も質の高い研究、教育、学術支援サービスを提供することを重視
- 社会・自然科学および工学上の方法や手段を厳密に遵守
- 研究、教育、応用政策研究に対する学際的・体系的アプローチ

国連大学の特色

- 誠実さ、信頼性、寛容性、権利の承認、および義務などの高い倫理水準
- 国連大学の研究、教育、能力育成、知識の普及に対する公平性と公開性
- 知的活力と開放性
- 説明責任を伴う学問の自由と自治
- 国連大学自身の活動の社会的責任と環境の持続可能性

他の多くの大学との **相違点**

- 国連大学の特別な使命により、多くの相違点が存在
- 数カ国に研究所を設置、かつ拡大していくグローバル構造
- 国際連合の一機関として、多くの国連組織および各国政府組織と緊密に連携
- 問題に密接に取り組むため、外交の世界や国連機関から専門家を迎え入れる
- 先進国および途上国にあるトップレベルの大学と協力
- 学問分野そのものではなく、諸問題やニーズに焦点を当てる

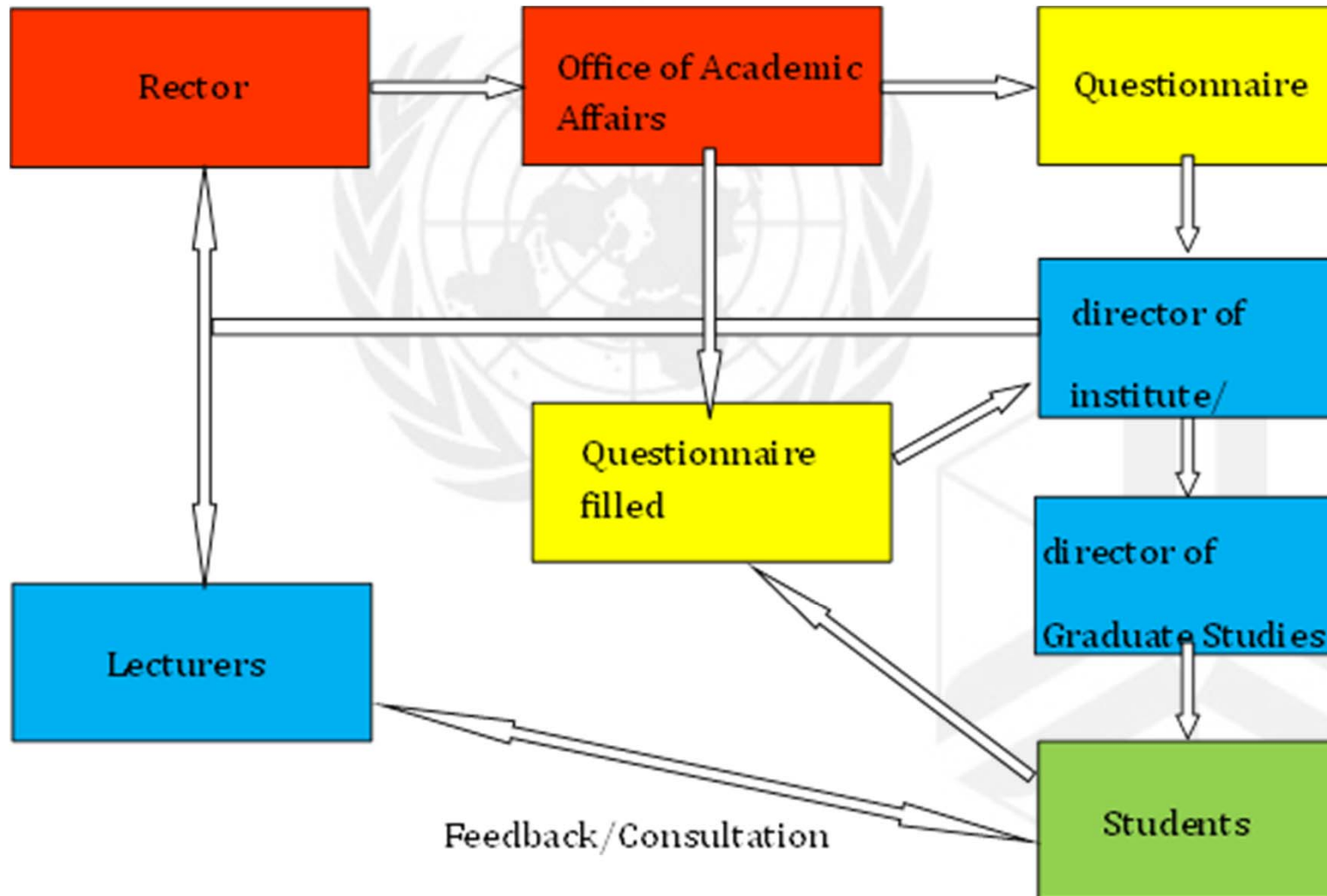
国連大学質保証の一般原則

- **卓越性:** 国際的にトップレベルの学術水準を目指す
- **関連性:** 特に発展途上世界において、ステークホルダーの願望や重要なニーズに対応する
- **ビジョン:** 問題を適時にかつ正当に見出す、先を見越した思考
- **優先順位:** 喫緊の問題(貧困、気候、生物多様性、平和)の解決を支援
- **統合:** 全体的アプローチ(社会、経済、自然、技術)による知識の統合
- **リーダーシップ:** 学長および学務部が質保証プロセスを指導
- **補完性:** 各研究所/部門レベルでの実施

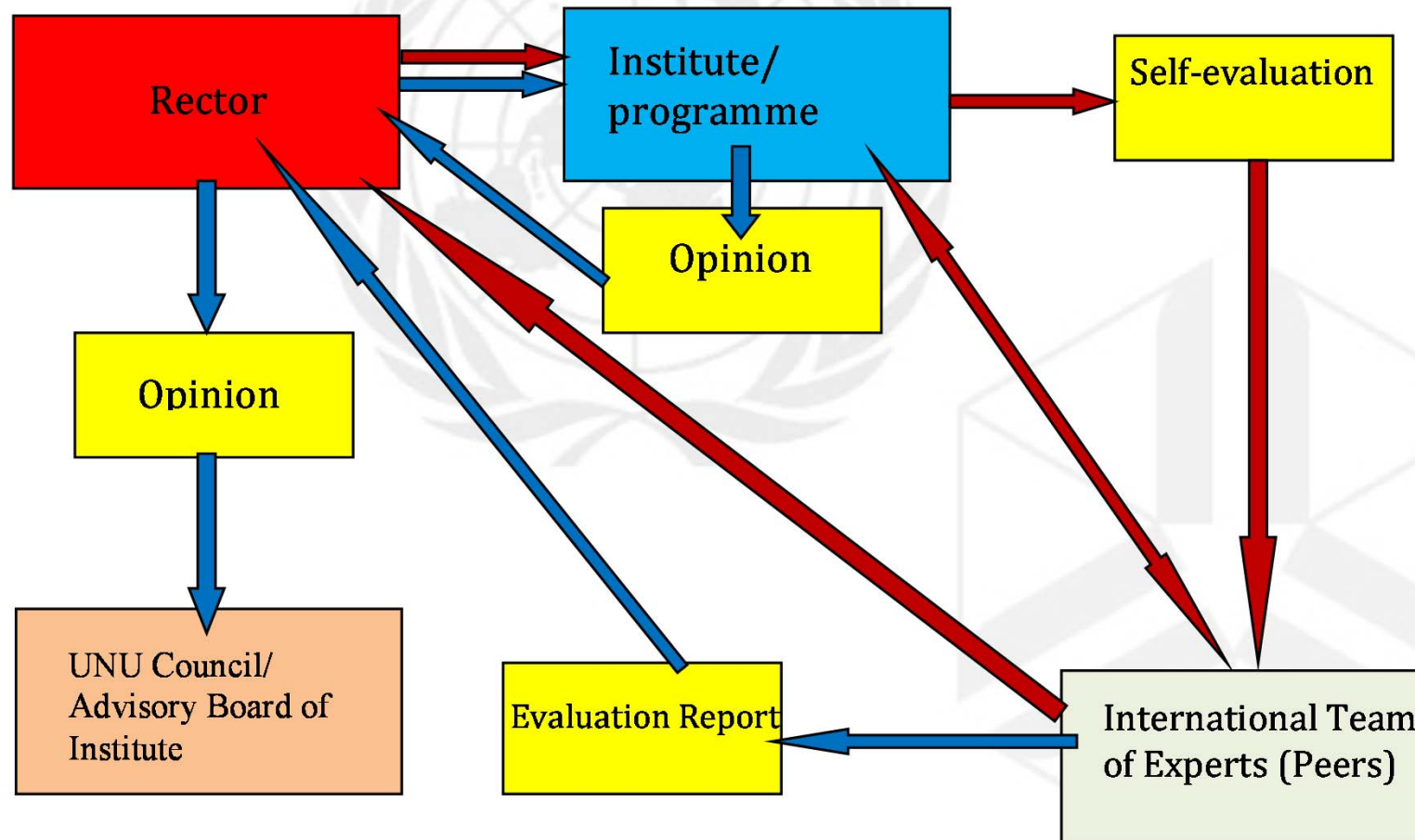
国連大学の質保証

- 教育・学習に関する学生評価
- 国連大学修了生調査(修了後5年目の学生に実施)
- 国連大学の機関レベル、プログラムおよび部門における自己評価
- 機関レベルにおける外部ピア評価(5年ごと)
- 国連大学の人事採用と評価
- 男女平等(ジェンダー・メインストリーミング)
- 財務・管理支援サービス

国連大学における学生による教育評価



国連大学における専門家評価(ピア・レビュー)の流れ



研究者の採用と評価

- 大学の質はその大学の研究者の質に基礎を置く
- 学生は、最高の研究者のいるところで勉強し、研究を行おうとする
- 従って、世界の最も優秀な人材を採用・保有することは、国連大学の質管理プロセスにおける重要な側面である
- 資格要件を満たした若手研究者の育成と保有
- アカデミック・レビュー、職員の保有と昇進
- ベンチマークや指標を用いることによる、研究の質、生産性およびインパクトの測定
- 学術成果・活動の報告

持続可能性へ向けた大学評価

- 持続可能な開発のための教育を重視
- サステナビリティ学の発展を進める
- 世界中で、持続可能性に関連する問題や課題を教育・研究する大学が増加
- 国連大学はこの分野における先導的立場にあり、大学評価制度は、持続可能性の観点から以下のように取り組んでいる
- 持続可能な開発のための教育（ESD）の実践を拡大・改善することで高等教育を転換し、持続可能な社会をつくる
- 大学の使命、プログラムおよび活動において持続可能な発展を目指す大学を高く評価する
- 持続可能性の促進という公約に基づき、大学を国際的に評価するツールを開発する

国連大学の直面する課題

- 学際的かつ応用的な問題志向の研究をどのように評価するか
- 国連大学の学術研究はサステナビリティ学に重点を置いており、新しい評価ツールが求められる
- 持続可能な開発のための応用政策研究を行っている大学のランキングおよび評価への取組
- 応用政策研究のインパクトを測定するのは困難な課題（国連大学は世界のシンクタンク・ランキング領域で第7位）
- 内部の質を評価する国際的基準またはモデルの不在
- 部分的には従来の大学の基準を活用可能であるが、それだけでは不十分
- 国連大学自身の高等教育活動の質を改善・測定するため、独自の新しい手法を開発する必要がある

国連大学のビジョン: 考え方が世界を変える



考え方が乏しい世界



考え方が無限にある世界



ご清聴ありがとうございました。